

研究成果報告書

政策・メディア研究科修士1年 EG コース

和田 恵

研究課題 SDGs の地域での活用方法の検討-沖縄の事例から

1. 概要

国際目標である、SDGs（国連持続可能な開発目標）を地域レベルに落とし込み、包括的に実行する方法を探ることで、地域の課題解決とサステナビリティの実現に貢献する。本研究では、対象地を沖縄県中部の読谷村とする。読谷村では、補助金頼りの経済からの脱却やサンゴ礁などの自然保護に課題を抱える。SDGs169 ターゲット間のインターリンクに配慮することで、持続可能な開発の3側面（環境、経済、社会）を調和させるための制度設計を立案する。

2. 今年度の活動手法

国際目標である SDGs の地域での活用手法を探るために、今年度は以下の3点を行った。1つ目は沖縄県読谷村での実証研究である。読谷村には6月、11月と2回渡航し、現地のステークホルダーからのヒアリングとワークショップを行い、まずは村の課題分析を行った。2つ目は他自治体など日本全体での導入事例の検証で、例えば政府によるジャパン SDGs アワードを北海道下川町が受賞するなど自治体、企業の取り組みが進んできている。そのため他地域、アクターの取り組み手法を調査し、読谷村に応用可能なベストプラクティスを考察した。3つ目は国際社会の事例の収集である。SDGs のフォローアップ・レビュー会合が毎年NY国連本部で行われており、2017年に参加し、国際社会の流れや事例を集めた。

3. 結果

3-1. 沖縄県読谷村での研究

読谷村には、6月と11月に2回渡航し、計14名（団体）にヒアリングし、また11月20日には村民約20名を集めたワークショップを開催した。ヒアリングでは、行政、漁業、観光、農業、自然、経済、人材、外部の8セクターで話を伺い、それぞれのセクターの課題を概観した。例えば、読谷村は戦後95%が米軍所有地であり、基地返還後の利用が村の主要課題であった。大規模返還後には、農地とすべく村が開発規制をかけ、一

次産業が中心の村づくりを行なってきた。また護岸工事をせず、自然海岸が多く残っており、残波岬という観光名所も有名である。しかし、一次産業を重視した結果、あまり観光に力を入れず、観光セクターや若い世代から見るとせつかくのリソースを生かせずに「もったいない」現状となっている。しかし、近年主にインバウンドが増えているが、言葉が通じない、住宅地で騒ぐ、マナーが悪い、交通事故など地元住民からはあまり歓迎されていない。また、サンゴ礁保全関係者からは、農業は排水基準がゆるいために海に流れ込んだあとサンゴ礁に悪影響を与えているという心配もある。

さらに、読谷村の隣の恩納村では、もずくの養殖に成功し、また漁協を中心にサンゴ礁保全と観光の両立が図られている先進事例である。さらに観光用ホテルも多い。恩納村役場と元ホテル関係者にヒアリングし、先進事例となった経緯や課題、現在の活動を伺った。しかし、恩納村でも、サンゴ礁と農業との関係はうまくいっていない面もあり、赤土流出防止に農家は消極的である。

ワークショップでは、村長挨拶やSDGsの説明の後、1グループに参加者と学生計4-6名を6グループ用意した。3部構成となっており、第1部では「読谷村/中部地区の課題」、第2部では「2030年のビジョン（2030年の理想の読谷村の姿）」について、第3部では「そのビジョンをどうすれば実現できるか」について議論した。第1部、第3部のあとに各テーブルで発表し、会場へ共有した。その際、ポストイットに書かれて出てきた意見を、ファシリテーターによってグルーピング・整理した。その結果、人材や6号線の渋滞などの課題が出てくる他、予想外に今後の理想の姿で「稼げる」村、「伝統（文化）」が多く出てきたことが印象的であった。

3-2. 日本全体での導入事例の検証

この1年で多くの自治体がSDGsの導入を図り始めた。例えば、上述の北海道下川町のほか、環境未来都市・環境モデル都市の第7回環境未来都市構想推進フォーラムでは全加盟自治体がポスター発表をし、SDGsとの関連をPRした。滋賀県は知事のリーダーシップのもと、総合計画にSDGsの反映を行なっている。また、政府も流れを後押しすべく、助成金を考案中である。代表的な自治体と取り組みを表でまとめた。

表1 SDGs 取り組み自治体（筆者作成）

| 場所 | 八雲町 | 札幌 | 滋賀 | 京都 | 内子町 | 下川町 | (文京区) |
|----|-------------------------|------------------------|------------------------------|-----------------|-----------------|-----------------------------------|----------|
| 主体 | 町役場 | NPO | 滋賀県庁、知事 | 京のアジェンダ21 | NPO | 町役場 | 区役所 |
| 方式 | トップダウン | ボトムアップ | トップダウン | ボトムアップ | ボトムアップ | トップダウン (&市民からのヒアリング) | トップダウン |
| 内容 | 地域活性化のためにSDGsを活用したまちづくり | 関心のある市民によるローカルアジェンダづくり | 知事のリーダーシップの、市の政策と、市の政策に反映させる | 京都の学生によるSDGsマップ | NPOから市の政策に反映させる | 環境未来都市を発展させる。2030年をめぐりに次期総合計画に入れる | 区のHPIに記載 |

その中で今年度は滋賀県に2回（「サステナブル滋賀✕SDGs」シンポジウム参加・ポスター展示、「キャンパス SDGs 滋賀ワークショップ・シンポジウム」参加・ポスター展示・発表）で滋賀県全体の動きを追った。また、京のアジェンダ21にヒアリングし、市民社会での活動を伺った。先行している下川町でさえ、「先行事例が日本でないため、やり方がわからない」（第4回 SDGs ステークホルダーズミーティング・環境省主催 2017.10.13 での発言）状態であり、各自治体ともに試行錯誤中であった。

そのほかにも、企業活動として、日本企業 CSR 報告書の SDGs 分析調査（環境情報科学にてポスター発表）を行い、時価総額上位 100 社の SDGs 取り組み状況を整理した。分析軸には、国連グローバル・コンパクトらによる、企業が SDGs を導入するためのガイドライン「SDG コンパス」の5ステップと、独自指標としてトップコミットメントでの言及を用いた。結果、今年度発行 65 社のうち、約3分の2である 42 社が SDGs を言及していた。全体的には、CSR 重点領域の特定に活用または重点領域とのマッピングが多かった。ステップ2（以下、S2）では、CSR 重点目標に SDGs を関連づけている企業が多かった。またサントリーなど、マテリアリティ分析を行った企業も多かった。S3は重点目標を元に数値等を含めたものを選択した。S4では、金融業では JICA 債の発行など商品開発や CSV 経営に関心のある企業が中心である。S5では、SDGs を明記し、SDGs についてわかりやすい報告書を作成していると判断したものである。トップコミットメントでも多くの企業が触れているが、通常、報告書発行には外部専門企業が携わるため、外部専門企業のアドバイス等も関連していると考えられる。（株式会社クレアンとの共同研究）

また、日中韓の加盟企業が集うグローバル・コンパクト日中韓ラウンドテーブルでは、ビジネスセッションのファシリテーターを務め、また国内でも SDGs 部会にもスタッフ参加し、企業の抱えている課題を伺った。

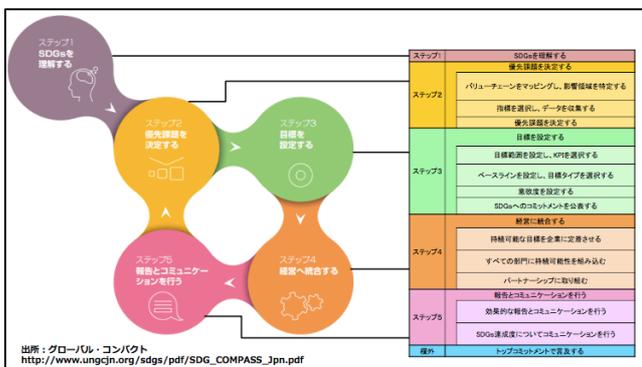


図1 SDG コンパスのステップ（コンパスをもとに筆者加筆）

3-3. 国際社会の事例

SDGs のフォローアップ・レビュー会合である、国連ハイレベル政治フォーラムに日本代表ユースとして参加し、国際社会の潮流や事例を追った。会合は、第1週テーマ別レビュー、第2週各国レビューに大別される。第2週には日本も発表し、日本政府レセプションにはピコ太郎が登場したことで国内でも話題となった。国際会議であり、大まかに課題となっていたことは「finance」と「data collection」であり、日本政府も ODA 寄りの話題であったことが残念だった。

自治体などのローカライズは、サイドイベントにて各国市民社会による発表のみであった。来年は、テーマ別レビューに Goal11 まちづくりが入るため、これからその流れを追っていきたい。

4. 学外での研究成果発表

上記の活動や成果を、以下の機会で発表した。

2017/4/17 朝日新聞朝刊フォーラム面「学生たちの SDGs」 またその中の「変革へ小さな一歩目指す」掲載

2017/6/1 滋賀県主催「サステナブル滋賀×SDGs」ポスター展示

2017/9/4 株式会社クレアン主催「若手官僚向け SDGs イベント」登壇

2017/9/5 科学技術振興機構主催「持続可能な開発目標と科学技術イノベーション」(コメンテーター登壇&ポスター展示

2017/9/30 外務省ら主催「グローバルフェスタ 2017」サブステージ「SDGs で地方を元気に！」登壇

2017/11/24, 25, 26 科学技術振興機構主催「サイエンスアゴラ 2017」ブース出展(科学技術振興機構、国連広報センター、吉本クリエイティブエージェンシーらと共同。成果は JST 広報誌に掲載された。)

2017/12/8 第 14 回環境情報科学ポスターセッション出展

2017/12/9, 10 滋賀県主催「キャンパス SDGs 滋賀ワークショップ・シンポジウム」ポスター展示、発表

2018/1/12 日本学術協力財団「学術の動向 2018 年 1 月号」執筆



図2 「持続可能な開発目標と科学技術イノベーション」登壇の様子

公開シンポジウム
持続可能な開発目標 (SDGs) と科学技術イノベーション

日時 2017年9月5日(火) 13:30~17:20 (開場 13:00)
場所 国連大学 ウ・タント国際会議場 (東京都渋谷区神宮前 5-53-70)

プログラム

- 13:30-13:45 開会挨拶 (総合科学技術・イノベーション会議, 外務省, 文部科学省)
- 13:45-14:00 シンポジウム開催趣旨説明「STI for SDGs とは」(JST)
- 14:00-14:15 学術界の取組 (東京大学 五神真 総長)
- 14:15-14:30 経済界の取組 (日本経済団体連合会 山西健一郎 副会長)
- 14:30-14:45 研究機関の取組 (産業技術総合研究所 中鉢良治 理事長)
- 14:45-15:00 国際機関の取組 (国連広報センター 根本かおる 所長)
- 15:00-15:30 休憩 [ポスターセッション]
- 15:30-17:15 パネルディスカッション 「セクター、分野、世代をどう越えていくか」 (パネリスト)
 - 産業競争力懇談会 (COCN) 小豆畑茂 実行委員
 - 日本工学アカデミー STI for SDGs プロジェクト 武田晴夫 プロジェクトリーダー
 - 国連大学 沖大幹 上級副学長
 - 日本学術会議 井野瀬久美恵 副会長
 - SDGs 市民社会ネットワーク 稲場雅紀 代表理事
- 17:15-17:20 閉会挨拶 (JST 瀧口理事長)

後援 内閣府、外務省、経産省、文科省、日本経済団体連合会、産業技術総合研究所、産業競争力懇談会 (COCN)、理化学研究所、海洋研究開発機構、宇宙航空研究開発機構、国際協力機構、
 【予定】 日本学術会議、日本医療研究開発機構、日本工学アカデミー、グローバル・コンパクト・ネットワーク・ジャパン
問合せ 科学技術振興機構 (JST) STI for SDGs タスクチーム email: sti-for-sdgs@jst.go.jp

参加費無料 事前登録制 (先着 300名)

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

図3 「持続可能な開発目標と科学技術イノベーション」ポスター